

日本建築学会第84回北海道支部研究発表会 特別企画

坂本一成講演会

「建築構成の修辭と論理、そして詩学」

2011年7月2日(土) 15:30-17:30 (開場 15:00)

札幌市立大学 芸術の森キャンパスC棟大講義室

2018 ミュンヘン冬期オリンピック選手村計画
Olympic Village project, Munich 2018, Germany

Perspective : CRYSTAL CG



坂本一成 講演会

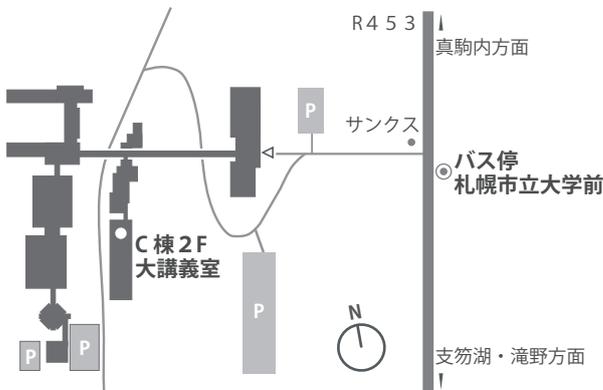
「建築構成の修辞と論理、 そして詩学」

2011年7月2日(土) 15:30-17:30 (開場 15:00)

札幌市立大学芸術の森キャンパスC棟 大講義室

無料 当日先着順 (定員 200名)

坂本一成氏は、建築家として住宅を中心とした多くの作品を手がけると同時に、教育研究者として建築のあり方に対する探求を続けてきた。氏の建築論の中で述べられる、「閉じた箱」、「家型」、「自由な架構と領域の広がり」、「スモール・コンパクト・ユニットとアイランド・プラン」といったコンセプトが、単にそれぞれのプロジェクトにおいて適用された手法ではなく、建築の枠組みを問いかける批評として機能してきたこと、それらが変遷しながら、現在へと続く「自由な空間」への探求として行われていることは特筆される。本企画では、氏の最新の建築論とそれに至る経緯を講演いただくとともに、建築へかわる様々な立場との対話を通して、現代における建築の意味について考えたい。



札幌市立大学 芸術の森キャンパス (南区芸術の森1丁目) | 札幌市営地下鉄南北線「真駒内駅」から2番のりば発の中央バスに乗車(約12分) →「札幌市立大学前」下車 →(徒歩3分)

問合せ先：札幌市立大学デザイン学部 那須研究室

011-592-5395 / s.nasu@scu.ac.jp

坂本一成 Kazunari Sakamoto

1943 東京に生まれる
1966 東京工業大学建築学科卒業
1971 東京工業大学大学院博士課程を経て、武蔵野美術大学建築学科専任講師
1977 同助教授
1983 東京工業大学助教授
1991 同教授
2009 東京工業大学を定年退職、同名誉教授
現在、アトリエ・アンド・アイ 坂本一成研究室主宰

著書

『現代建築 | 空間と方法 10 坂本一成』同朋舎出版、1986
『構成形式としての建築—「コモンシティ星田」を巡って』INAX 出版、1994
『対話・建築の思考』共著 (多木浩二)、住まいの図書館出版局、1996
『ハウジング・プロジェクト・トウキョウ』共著 (都市環境構成研究会)、東海大学出版会、1998
MAISONS / HOUSES 1969-2001: VERS L' ESPACE OUVERT / TOWARD OPEN SPACE, Édition du Moniteur, 2001
『坂本一成 住宅—日常の詩学』TOTO 出版、2001
『建築を思考するディメンション—坂本一成との対話』共著 (伊東豊雄・山本理顕・吉松秀樹・妹島和世・内藤廣・青木淳)、岩岡竜夫・奥山信一・曾我部昌史 監修、ギャラリー・間 編、TOTO 出版、2002
Kazunari Sakamoto Häuser / Houses, Edition Detail, 2004
『タッチストーン 大橋晃朗の家具』共同監修・共著 (多木浩二・伊東豊雄)、TOTO 出版、2006
『篠原一男 住宅図面』共編著 (篠原一男住宅図面編集委員会)、彰国社、2007
『坂本一成 / 住宅』新建築社、2008
『建築に内在する言葉』TOTO 出版、2011

作品

散田の家 (1969)
水無瀬の町家 (1970)
登戸の家 (1971)
雲野流山の家 (1973)
代田の町家 (1976)
南湖の家 (1978)
坂田山附の家 (1978)
今宿の家 (1978)
散田の共同住宅 (1980)
祖師谷の家 (1981)
House F (1988) [日本建築学会作品賞 (1990)]
コモンシティ星田 (1991-1992) [村野藤吾賞 (1992)]
熊本市営託麻団地 (1992-1994)
幕張ベイタウン・パティオス四番街 (1995)
House SA (1999)
Hut T (2001)
南堀江 COCUE (2003)
egota house A (2004) [日本建築学会作品選奨 (2008)]
QUICO 神宮前 (2005)
水無瀬の別棟 (2008) [日本建築学会作品選奨 (2010)]
東工大蔵前会館 Tokyo Tech Front (2009)
宇土市立網津小学校 (2011)